

# 北海道寿都町・神恵内村の「対話の場」の分析

Contents Analysis of “Place of Dialogue” at Suttsu Town and Kamoenai Village in Hokkaido

○松本礼史\*

MATSUMOTO Reishi

## 1. はじめに

日本における高レベル放射性廃棄物（HLW; High Level Radioactive Waste）の処理・処分をめぐるのは、2020年11月、北海道の寿都町と神恵内村において、地層処分施設立地の文献調査が開始されている。文献調査の一環として、それぞれの地域社会では「対話の場」が設置され、地層処分の実施機関である原子力発電環境整備機構（NUMO）と地元町村、地域住民との間で、様々な意見交換がされている。

本報告では、寿都町と神恵内村という2町村の「対話の場」において、特に地域住民からどのような発話があったのかを中心に対話の内容を分析する。地域の違いや「対話の場」のルール設定の違いによる議論への影響について考察する。

## 2. 分析の方法

NUMO が公開している寿都町・神恵内村の「対話の場」の会議録を分析対象とした。各回の「対話の場」は、NUMO 等からの説明とワークショップ（WS：意見交換）から構成されている。WS 部分の発言者や発言詳細は公表されていないが、WS 後にファシリテーターが振り返りを行い、その分の発言は、発言録に収録されている。分析には、ファシリテーターによる WS の振り返り部分の発言を用いた。なお、寿都町における第1回の「対話の場」では、会員（地域住民）からの発話が、そのまま会議録に収録されているので、会議録の住民発話部分を分析対象とした。

テキスト分析には、KH Coder3（樋口2020）を用いた。分析に当たっては、「文献調査」、「地層処分」、「対話の場」など、特有の用語を一語として認識させるなどの前処理を行っている。

## 3. 分析の結果

分析に使用したデータは、(1) 寿都町「対話の場」第1回の住民発話、(2) 寿都町「対話の場」第2回～第15回のファシリテーターの WS 振り返り部分、(3) 神恵内村「対話の場」第1回～第15回のファシリテーターの WS 振り返り部分、(4) 総文数は、寿都町分が1132文である。

寿都町の「対話の場」の分析結果を表1および図1に示した。

---

\* 日本大学生物資源科学部 College of Bioresource Sciences, Nihon University  
〒252-0880 藤沢市亀井野 1866 E-mail: matsumoto.reishi@nihon-u.ac.jp

表 1 寿都町の「対話の場」における用語の頻度

寿都対話の場1		寿都対話の場2_11		寿都対話の場12		寿都対話の場13_15	
会則	.122	意見	.120	フィンランド	.091	町	.144
町長	.120	説明	.118	説明	.086	話	.124
NUMO	.106	質問	.116	議論	.080	意見	.108
対話の場	.078	話	.099	日本	.074	今日	.095
人	.077	出る	.092	信頼	.073	部分	.090
町	.059	回答	.090	処分	.073	出る	.085
今	.059	聞く	.063	原子力	.069	文献調査	.082
寿都町	.058	今日	.061	質問	.065	将来	.071
参加	.044	皆さん	.060	他	.063	説明	.070
分かる	.042	議題	.055	受容	.056	前回	.068

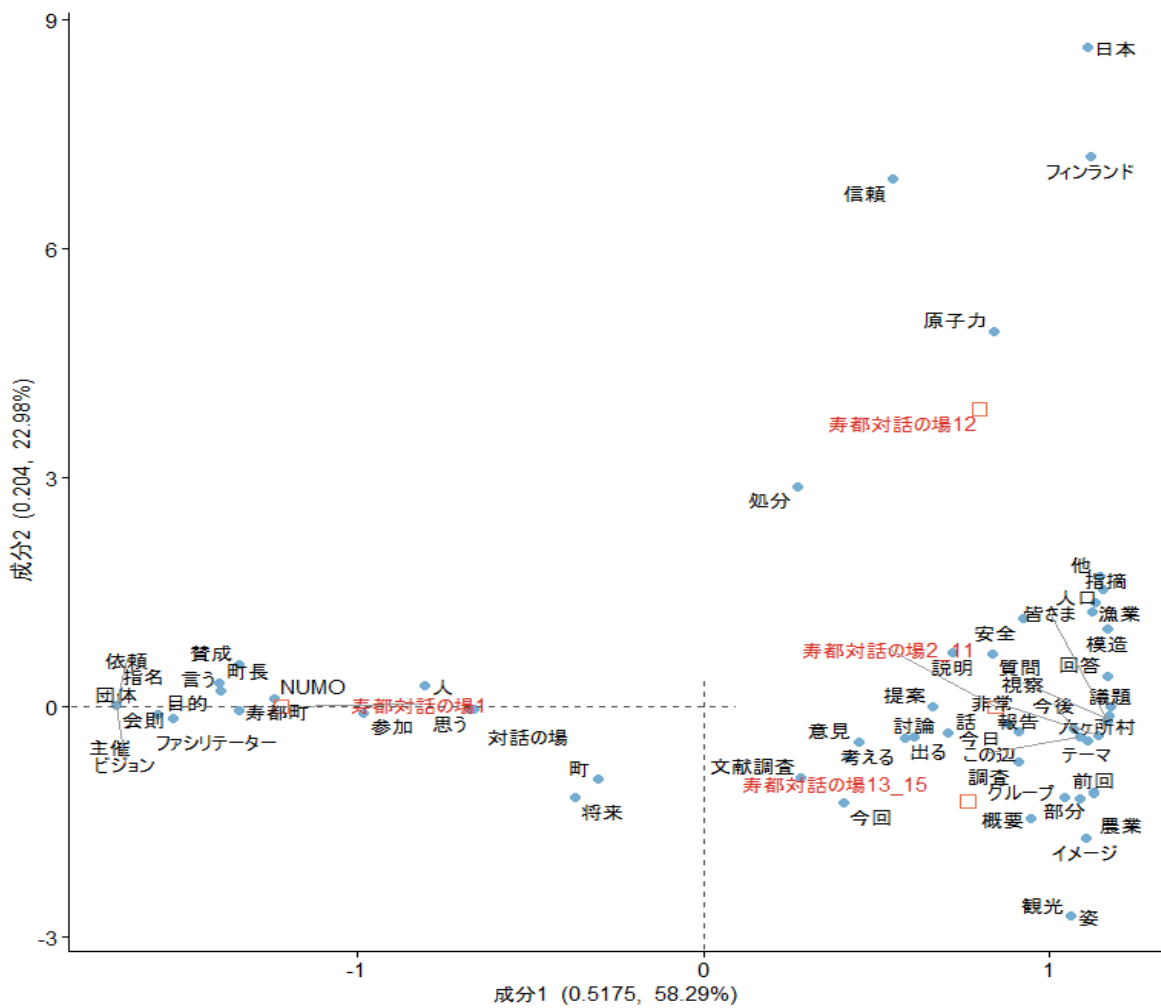


図 1 寿都町の「対話の場」の主成分分析

参考文献

樋口耕一 (2020)『社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して: KH Coder オフィシャルブック』ナカニシヤ出版